

第30回泌尿器科漢方研究会学術集会

会期：2012/04/23 ～ 2012/04/23 会場：パシフィコ横浜(神奈川県)
会長：

誌名：第30回泌尿器科漢方研究会学術集会講演要旨集

Vol : No. Page : 2

発行年：2012

腹圧性尿失禁に対する 麻黄附子細辛湯使用の経験

横浜元町女性医療クリニックLUNA

○畔越 陽子、関口 由紀、河路 かおる
金城 真美、前田 佳子

【背景】腹圧性尿失禁は咳や動作などで腹圧をかけた際の失禁であり、出産や加齢などで悪化する。治療は内服薬（ベータ2受容体刺激薬）、理学療法（骨盤底筋体操）、手術療法（尿道スリング手術、尿道 bulking agent 注入）がある。外来治療ではベータ2受容体刺激薬処方しばしば行われるが、副作用として手指振戦や動悸があり、特に高齢者で内服継続できない例が多い。

麻黄附子細辛湯は、通常は虚弱者の悪寒、微熱、全身倦怠に用いられる。麻黄はエフェドリン、プソイドエフェドリンを主成分とし、鎮咳、交感神経興奮、利尿、解熱の効果をもつ。

今回我々は腹圧性尿失禁を有する女性患者に対して、麻黄附子細辛湯を使用し尿失禁量に対する効果を検討した。
【症例】症例1 70歳女性。腹圧性尿失禁にて2006年から当院通院。ベータ2受容体刺激薬、抗コリン剤、三環系抗うつ剤等を内服していた。2011年11月から麻黄附子細辛湯7.5g/日の内服を開始した。尿失禁用パッド枚数は麻黄附子細辛湯内服前10枚/日から6枚/日へと減少している。麻黄附子細辛湯7.5g/日ではほとりの訴えがあったため、現在5.0g/日で経過を見ている。

症例2 67歳女性。5年前から腹圧性尿失禁があり、2011年当院初診。麻黄附子細辛湯7.5g/日内服開始した。4週間内服したところ、尿失禁パッド枚数は内服前4枚/日から1枚/日へ改善し、本人の満足度も高かった。

【考察】腹圧性尿失禁で外来を受診する女性患者のなかには高齢者や虚弱者も多く、そのため、副作用によるベータ2受容体刺激薬内服中断症例も多い。麻黄附子細辛湯は麻黄製剤の中でも虚弱者むけであるため、そのエフェドリン効果を期待して処方したところ、若干の改善が認められた。まだ症例は少なく、短期の結果のみであるが、今後症例を増やして検討していく予定である。

【結語】腹圧性尿失禁に対する麻黄附子細辛湯治療の経験を報告した。腹圧性尿失禁に対するほかの治療法が困難な症例に対して、選択肢のひとつとなる可能性があると思われる。